

2009年10月14日

村井県政 3周年

報告書

(2009年9月2日～10月7日調査)

調査の設計	1
結果の概要	2
今回のポイント	4



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

調査の目的

村井仁知事は9月1日で就任3周年を迎え、1期目の残り任期1年に入った。知事は、県政運営について「がれきの山を片付け、種をまき、芽が出てきたところへ不況というきつい霜が降りたという感じだ」と自己評価し、波乱続きだった田中前県政を引き継いで“安定軌道”にのせたことの自負とともに、世界的な経済苦境の波に巻き込まれた、想定外の影響の大きさを吐露した(9月8日付・信濃毎日新聞)。

県政は引き続き、財政立て直し、ものづくりを軸とする県産業の振興、観光のてこ入れなどの重要課題を抱える。これら個々の取りくみの一方で、今後注目されるポイントは 政権交代した新たな国政との向き合い方 村井県政の継続か否か - の2点に集約される。国政との権限委譲、財源配分を軸とする地方主権の模索の中で、村井県政が長野県の独自性をどう「制度設計」していくか、あらためて知事の手腕と意欲が問われる。県民の視線が熱くなっていく局面を迎え、世論の動向と期待を探る。

調査の設計

調査対象	県内に住む20歳以上の男女1000人
抽出方法	層化三段無作為抽出法。県下“有権者の縮図”となるように、東北中南の4地域に分け、一定のルールで選定した市町村の選挙人名簿をもとに抽出した。
調査地点	19市 8町 6村
調査方法	郵送回収(一部ファクス・インターネット)
調査時期	2009年9月2日～10月7日
有効回答	651人(男性 319人 女性 332人)
回収内訳	郵送 599人(92.0%) ファクス 25人(3.8%) ネット 27人(4.1%)

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

II 結果の概要

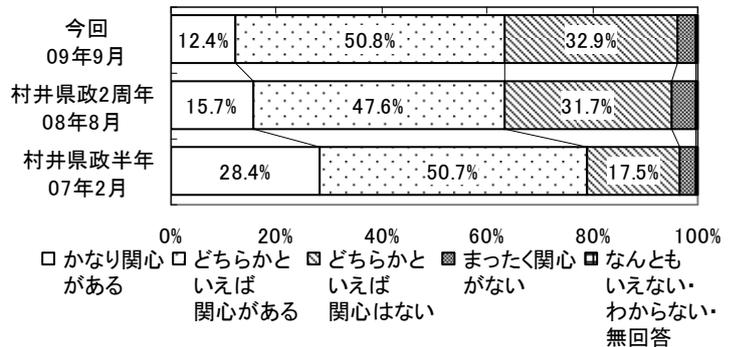
村井県政と政策・運営手法

◆「県政に関心」動かず63%

県政に「かなり関心がある」が12%、「どちらかといえば関心がある」は51%。総体で63%と1年前と同じ。

男性や中高年層で平均値を上回るが、30代の45%など若年層では振るわない。また、北信68% - 東信57%の地域差もめだつ。

県政への関心度

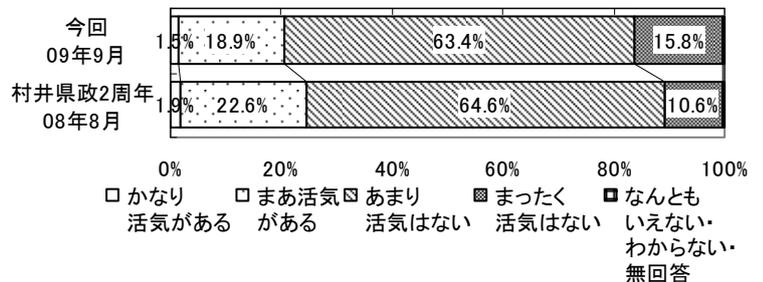


◆長野県経済「活気ない」増え約80%

長野県の経済や県民の暮らし向きの現状について「活気がある」は総体で20%にとどまり、1年前よりややダウン。「活気がない」が約80%に達した。

20代と70代で「活気がある」は30%前後に伸びるが、30~60代や商工・自営業などの受けとめは厳しい。

長野県経済・暮らし向き



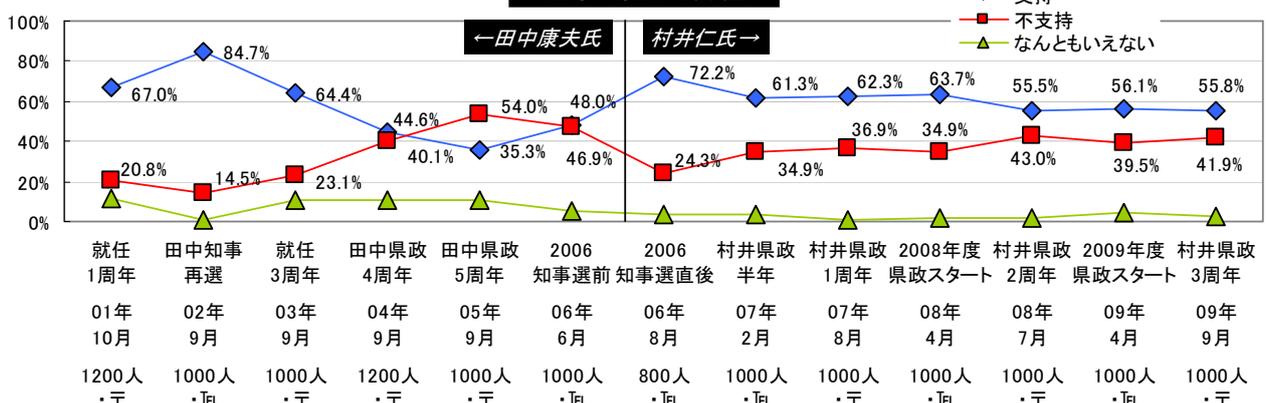
村井知事の評価

支持 横ばい55.8% **不支持 41.9%**

残り任期1年を切った村井県政・知事に対する評価は「支持する」が総体で55.8%。不支持は41.9%。昨年7月の就任2周年調査からほとんど変動がみられない。このうち「どちらかといえば支持する」が39.8%、「どちらかといえば支持しない」は28.7%と、消極的な評価が多くを占める。

支持率は、初当選時に72.2%を記録して以来、60%台の高さをキープし、1年前に初めて“大台割れ”して50%台で推移している。

知事・県政の評価



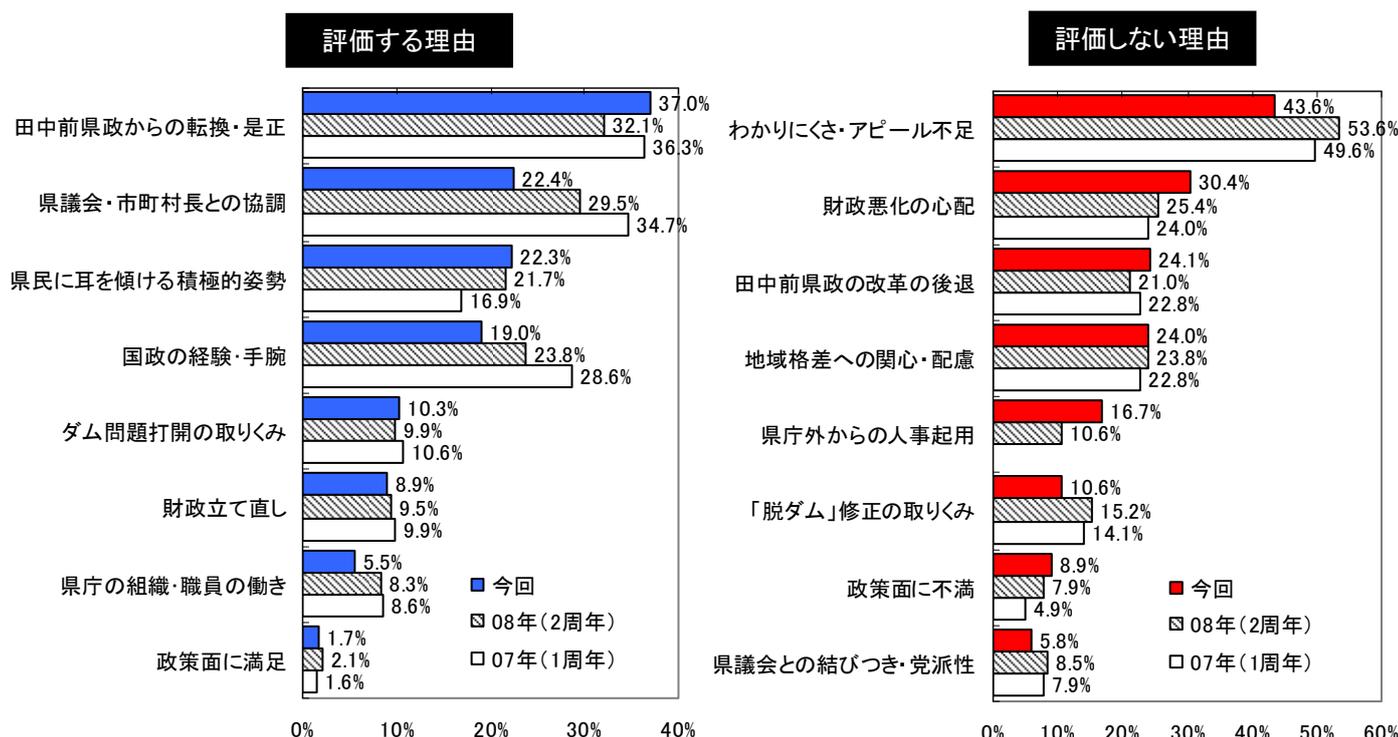
<注>田中県政当時は「なんともいえない」を郵送調査(干)のみ選択肢として明示。

評価する理由

◆「前県政の転換」トップ変わらず 「協調」「手腕」は目減り

「田中前県政からの転換・是正」が2年前の就任1周年調査から一貫してトップ。2位「県議会・市町村長との協調」、3位は「国政の経験・手腕」に代わり「県民に耳を傾ける積極的姿勢」が浮上した。

「前県政からの転換」は男性が高め。50代や管理職層もめだつ。また、自民党の支持層でも高くなっている。「県議会・市町村長との協調」は女性や高齢層、民主党の支持層、無党派なども高め。村井知事の支持層で「県政転換」が大きく抜け出し、不支持層では「特にない」が40%台。



評価しない理由

◆「わかりにくさ」断然トップ続く 「財政悪化」高まる

「わかりにくさ・アピール不足」が引き続き他を引き離すトップ。女性や若い年代層で高い傾向も続く。

2位は同じく「財政悪化の心配」で5ポイント上昇。20代での高さがめだつ。3位には「前県政の改革の後退」が上がり、ほぼ同率で「地域格差への関心・配慮」が続く。

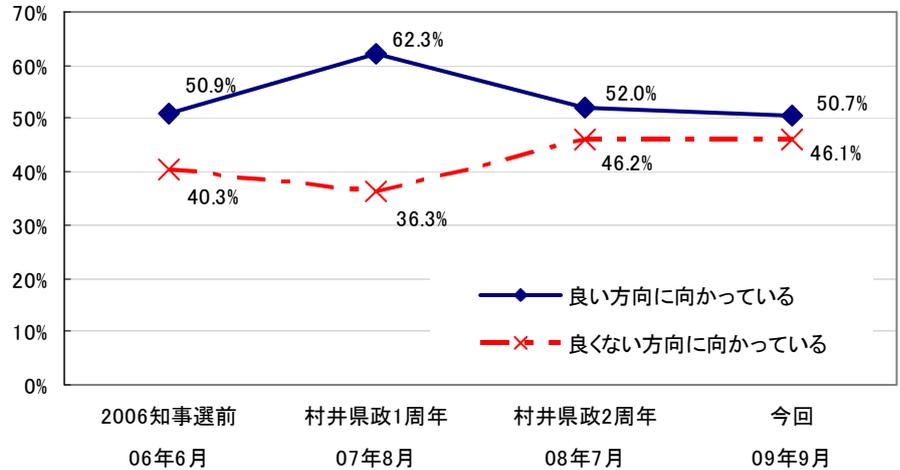
村井知事の支持層は「財政悪化の心配」が「わかりにくさ」とトップにほぼ並ぶ。不支持層は「わかりにくさ」に次いで「県政改革の後退」が僅差で迫る。評価する・評価しないの双方で、政策面はそろって低位に置かれている。

Ⅲ 今回のポイント 今後の県政の方向

◆長野県は「良い方向に向かっている」51% 「良くない方向」46%

村井県政が始まってからの3年間で、長野県は全般的にみて「良い方向に向かっている」が51%、「良くない方向に向かっている」は46%。就任2周年から横ばい状態。

男女間にめだつた違いはみられないが、40代は否定的な受けとめが半数を超す。



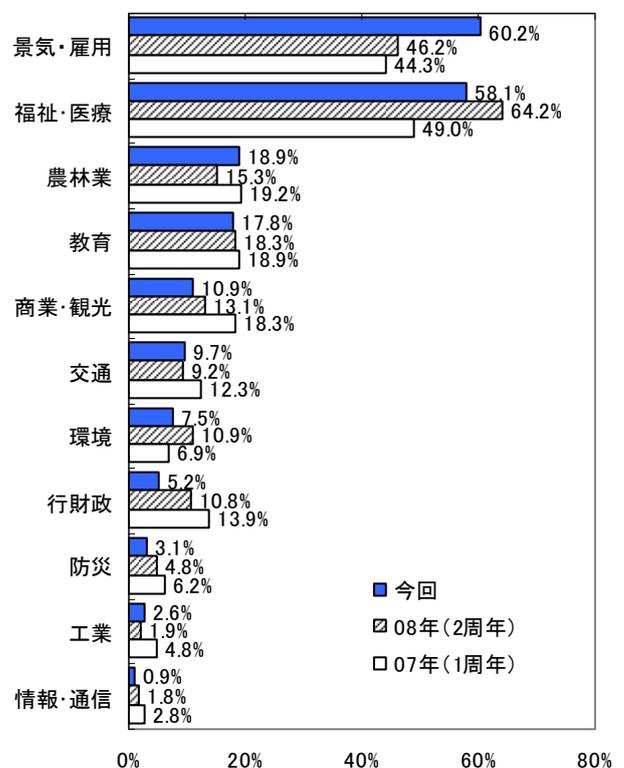
県政の課題

県政に望む優先施策 「景気・雇用」と「福祉・医療」抜きん出る

「景気・雇用」が前回2位から大幅に伸びてトップ。「福祉・医療」が小差で上位に並び、他を引き離す。上位には「農林業」「教育」「商業・観光」が続く。

「景気・雇用」は男性がやや高めで、年代層では20代と50代の高さがめだつ。「福祉・医療」は女性が大きく引き離し30代と高齢層が平均値を上回る。「農林業」は50代以上で高まり「教育」は40代以下で高めの傾向がみられる。

「景気」は市街地で大きくリード。「福祉」は市街地と住宅地で高く「農業」は農村で伸びる。

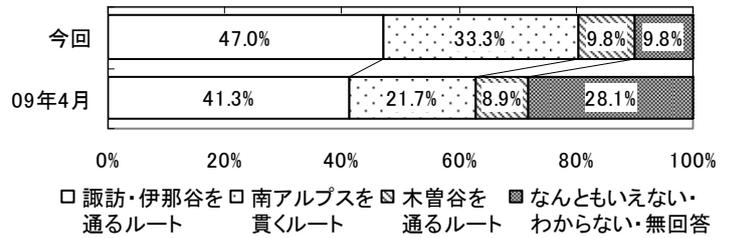


※07年の「商業・観光」は2つの項目を合計した。

リニア新幹線ルート

「諏訪・伊那谷」47% 「南ア貫通」33%

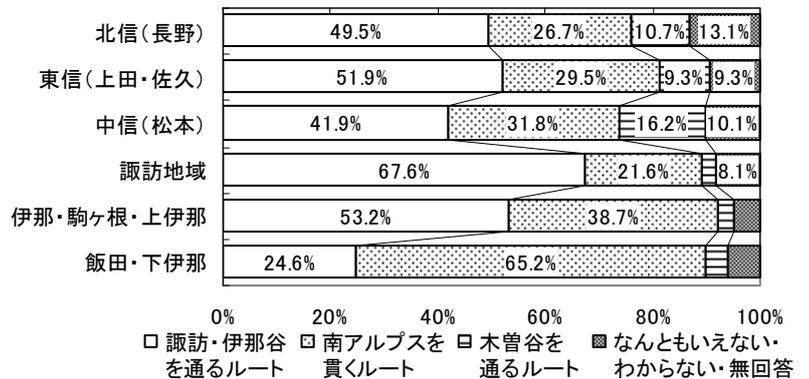
県下全体では「諏訪・伊那谷」が47%の多数を占め「南アルプス貫通」は33%。「木曾谷」は10%を割り込む。「諏訪・伊那谷」は男性で高く、すべての年代層で最も多くを占める。職業層では管理職層が「南ア貫通」が半数を超える。



諏訪地域「諏訪・伊那谷」70%に迫る 飯田・下伊那「南ア貫通」65%

各ルートに関係する地元は、諏訪地域が「諏訪・伊那谷」に68%の高率を示し、伊那・駒ヶ根・上伊那でも半数を超す。しかし、飯田・下伊那は「南ア貫通」に65%の集中ぶり。他方、北信、東信は「諏訪・伊那谷」が50%前後で最も高く、中信でも40%余で「南ア貫通」を上回る。

◆地域別では



村井県政の継続

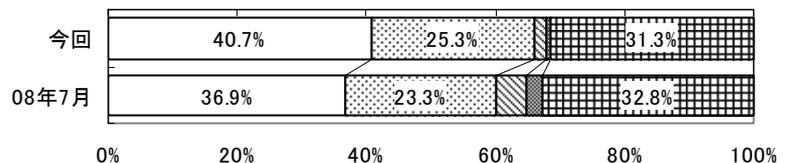
「今期限り」41% 「2期」25% 留保が30%余

「今の任期限り」が41%と1年前よりやや上向き最も多くを占めた。次いで「2期」が微増の25%、「3期以上」はごく少ない。他方「なんともいえない・わからない」はほとんど変わらず30%余。

「今期限り」は男性で44%と女性を上回り「2期」も30%で女性を引き離す。女性は「なんともいえない」が40%に迫る。

年代層では、40代で「今期限り」が半数に迫り最も高い。「2期」は70代で36%の最高。若い年代層では「なんともいえない」が40%台の高率。

村井知事の支持層は「2期」が40%を突破するが、不支持層は「今期」が4人に3人を占める。政党支持層では「今期」が民主党45% - 自民党25%の開きがめだつ。無党派層は40%余。



◆支持政党別では

